

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
笑顔で元気に学ぶ子 ○進んで学ぶ子 ○思いやりのある子 ○元気な子 ○ふるさとを愛する子	<input type="checkbox"/> 学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 C 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 C 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 A 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 A 】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(小学校6年) ○国語A・B、算数B、理科については、県平均と比べると正答率がかなり高い。算数Aについても、高い。 ○国語Aについては、12問中6問が正答率が100%であった。 ○領域別では、国語A・Bの「読むこと」、算数Aの「数と計算」が県平均を下回っている。 例：空間の中にあるものの位置を正しく書く設問100%(県71.7%) はり金1mの重さを求める式を選ぶ設問54.5%(県65.6%) 県(小学校【3年～5年】) ○3年生については、算数は、全国平均とほぼ同程度で、概ね良好であるが、国語は全国平均を下回り、領域の「書くこと」に課題がある。 ○4年生については、国語、算数とも全国平均を上回り、たいへん良好である。 ○5年生については、国語、算数とも全国平均を下回り、課題があるが、国語の活用は概ね良好である。国語では、領域の「話すこと・聞くこと」、観点の「国語への関心・意欲・態度」に、算数では、領域の「図形」、観点の「数量や図形についての知識・理解」に課題がある。 ○3・5年生については、記述の解答形式に苦しさがある。	【学習状況調査の結果】 ○家庭での学習時間は、3時間以上の児童はいないが、2時間以上までを含めると、県平均を上回っている。 ○テレビの視聴時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていたと答えた児童の割合は、県平均をかなり上回っている。 ○放課後に、読書をして過ごす児童の割合は、県平均並みである。 ○先生や家の人にあいさつをすると答えた児童の割合は、県平均をやや下回っている。 ○地域の行事に参加する児童の割合は県平均をかなり上回っている。

成果	課題
○算数の授業で、ペア学習やグループ学習を進め、自分たちの考えをホワイトボードにまとめる活動を繰り返し行うことで、自分の考えを持ち、表現する力が少しずつ着いてきている。 ○学習に落ち着いて取り組み、何とか自分で答えを導き出そうとする児童が増え、ほぼ無解答がない。 ○朝学習で、αドリル等を活用し、課題のあった問題に取り組むことで、算数の基礎的な能力がついてきている。 ○高学年児童の、毎日自主学習に取り組む割合が高くなってきている。	○学年によっては、基礎的な力を付けていく必要のある児童が見られる。 ○「数と計算」「図形」の領域を苦手としている児童が多い。 ○提示された条件や字数制限のある文章で答えたり、目的や意図に応じ、引用して書いたり、まとめたりすることが苦手である。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
条件や、目的に応じた文章で表現する力を育てる。	学年末まで	「書くこと」の領域の問題が、県平均並みに解けるようになる。	記述問題に取り組ませたり、国語や理科、社会を中心に、キーワードや字数を示してまとめを書かせたりすること、また、低学年の生活科では、視点を示してワークシートにまとめさせたりすることを通して文章力をつける。	キーワードを使っただけは少しずつできるようになってきているが、字数制限内で書くことについては、学年によって苦しさがある。	C			
「数と計算」「図形」の領域を中心とした基礎基本を定着させる。	学年末まで	「数と計算」「図形」の領域の問題が県平均並みに解けるようになる。	「WEB評価支援システム」の個人別教材やαドリルを使ったり、過去問題を解かせたりすることで、苦手な課題の解消を目指す。	定着には、さらに時間を要する学年もあるが、αドリルを活用し、計算・図形の領域で成果の上があった学年もある。過去問題についてもしっかり活用していきたい。	B			
家庭での高学年の自主学習の取り組み(基礎学習プリントも含む)を充実させる。	学年末まで	高学年児童の9割が、毎日自主学習ノートや基礎学習プリントに取り組めるようになる。	よい取り組みができていない児童のノートをコピーし、各教室に掲示して参考にさせる。また、よく取り組んでいる児童のノートには、励みとなるシールを貼ったり、コメントを書くなど、点検や評価を確実にし、意欲を育てる。	毎日取り組むことで、習慣化している児童が増えてきた。児童の実態に応じて、復習プリントに取り組ませるなどの対策をしている。	B			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○小中間による授業公開、並びに児童生徒の情報交換を行う。 ○読書活動、自主学習ノート、中学校の試験期間に合わせたメディアコントロールの取り組みの推進、毎時間の授業のまとめを自分の言葉でまとめさせたり、文章の要旨をまとめさせたりすることに各校とも取り組んでいく。	○「家庭学習のてびき」をもとに、学級懇談や個人懇談などで呼びかけると共に教員・児童両面からの意識調査をおこなう。 ○メディアコントロールの取り組みを、家庭に呼びかけ行う。